

受付番号

64

許可番号

大歯医倫 第 111026 号

研究課題名

歯科衛生士が行う介護職員への口腔ケアに関する教育的介入による効果の検証

研究責任者

糸田 昌隆

申請者

吉本 美枝

研究終了日

2020 年 3 月 31 日

所属

医療保健学部  
口腔保健学科

所属

医療保健学研究科  
口腔科学専攻

職名

教授

職名

大学院 2 年生

申請の概要

近年、本邦では超高齢者社会を迎え、口腔ケアの重要性は医療・介護・看護の分野でも増していくと考えられる。また、要介護高齢者の増加に伴い各医療職の業務の負担も大きくなることから、特に歯科専門職が常時従事していない介護施設等では、より効率的で適切な口腔ケア法の確立・普及が求められている。実際、要介護高齢者の口腔健康管理においては歯科衛生士が招聘される機会が増加しており、歯科衛生士が実際に口腔ケアを行うことや、介護施設の介護職員に対して効果的な口腔ケアの手技や口腔衛生状態の評価方法などに関する教育的指導を行う機会も増加している。しかしながら、歯科衛生士による介護現場への教育的指導による介入効果についての報告は少なく、また介入方法に関して明確に示されていないのが現状である。そこで本研究では、介護施設において、入所者の口腔衛生状態や栄養状態を評価し日常的に口腔ケアを行う介護職員に対して歯科衛生士が行う口腔ケアの手技や口腔衛生状態の評価方法などについての教育的指導が、介護職員の口腔ケアに関する意識や知識、技能を向上させ、口腔ケア対象者の口腔内及び全身状

---

態の維持・改善に寄与するかを検討する。

本研究では、介護老人福祉施設に入所する要介護高齢者 75 歳～100 歳（男女約 60 名）と介護職員（男女約 30 名）を対象とする。歯科衛生士が ORAL HEALTH ASSESSMENT TOOL 日本語版（OHAT-J）を使用し、入所者の口腔内の問題点を明確にする。介護職員に対して歯科衛生士が OHAT-J の評価方法と口腔ケアの方法を指導し実習を行った後、OHAT-J の評価結果を参考に介護職員は入所者へ日常的な口腔ケアを実施し、口腔衛生状態の変化を明らかにする。また、介護職員の口腔ケアに対する意識の変化についてもアンケート調査を行う。

以上のように歯科衛生士が介護職員へ教育的指導を行うことで、介護職員の意識などの向上および口腔ケア対象入所者の口腔衛生状態改善への効果、さらには歯科衛生士の適切な介入方法を明らかにすることができれば、歯科衛生士が行う口腔衛生管理を含めた口腔保健指導の新たな概念と介入方法の展開が可能になると期待される。